

II. 「市場」形式による協力・協業（続）

B. 市場原理と計画原理 「社会主義計画経済」の実験と失敗

1. 社会主義（共産主義）革命

a. 初期資本主義

産業革命（18世紀末～）と工業の発展
貧富の差の拡大、労働者の搾取（少年労働）

b. 社会主義の思想

K. Max、F. Engels：資本論（19世紀）
共産党宣言

c. （旧）ソ連の成立

第1次世界大戦直後（1914～1917）：ロシア革命
共産党政権の成立、「労働者による独裁」

d. 社会主義計画経済

生産財・資本財の国有化、国有企業（国有銀行）
農業：コルホーズ（共同体）
国民は僅かな消費財のみを所有
分配の平等
「生産物は、能力によらず、必要に応じて分け合う」
利潤・利子所得の禁止（資本家を排除）

2. 資本主義と社会主義

経済システム：

ある特定の目的のために複数の人間が相互に連携しながら仕事を進める集
どの経済システムでもパフォーマンス（働き具合）は、そこで使用される情
報とその手段によって大きく左右される。

a. 資本主義（市場システム）

経済活動は原則自由
生産・取引の自由（安全保持上の規制はある）
職業選択の自由、利潤入手・蓄積・利用の自由
分権型決定

b. 社会主義（国家計画システム）

中央政府の計画によって仕事がすすむ

（職業選択、生産決定、投資資金は国が管理、取引価格は政府が決定）

20世紀の経済実験 2システムの競争

結果は資本主義の一方的勝利、ソ連崩壊し数カ国に分裂

東ドイツが西ドイツに吸収され、現在は一体化

c. 論争

「社会主義論争」1920-40年代

F. Hayek, A. Lerner など西側経済学者は計画経済の非効率性を指摘

同「予言」は50年後に実現

第2次大戦後の「東西対立」

米・ソの軍事対立

東西間の経済競争

（北朝鮮は「対立」の最後の姿）

d. （旧）ソ連の社会主義経済

経済システムと情報

(1) 集権と分権

集権：中央のセンターで決定

分権：担当セクターで決定

（現在の日本は地方分権など、分権を目指している。今は中央集権だと考えられている。一方、ソニーのように、社長が強力なリーダーシップを発揮することで伸びた企業もある。）

(2) 情報集中と分散

「旧ソ連社会主義」の実験

歴史的経過

ロシア革命（1917）72年を経て ベルリン崩壊（1986）

社会主義経済中央政府への情報集中と計画作成

ソ連当局の考え方：資本主義に対する批判から始まった

- ・ 自由放任にすると資本家／労働者の区別と貧富格差が生じる
- ・ したがって、自由を否定し政府がほとんどすべてを計画（各人は不自由）

経済活動は政府が決める、大幅な制限

- ・ その代わりに、平等が実現される

（誰でもある程度の生活ができる、安心。）

e. 社会主義経済のゆきづまり

社会主義経済がどのように崩れたか

平等 怠惰を許す

理想：能力に応じて働き、必要に応じて受け取る 福祉の考え方

現在の日本の福祉思想の考え方は、これに影響を受けた

	徴兵 赤紙 切手 1 銭 5 厘 (0.015 円)	
	成果	報酬
高能力 / 高労働	10	5
/ 低労働	5	5
低能力 / 高労働	5	5
/ 低労働	1	5

働きにかかわらず平等な報酬だと、働かなくなる

生産が停滞、経済成長が鈍化

生活水準も低いままにとどまる

中央集権

- ・ 経済計画が十分に緻密に作れない
 生産量で規制
 不十分な情報で計画作成
 「計画の誤り」が発生

結果：

各種の財の生産が過剰 / 過小供給

例：ブーツ生産の失敗

日本人 スリッパ、ぞうりを履くのがうまい 器用 手足の神経が行届いている

ロシア人 寒いのでブーツが必要

 足にぴったりしていないと、歩けない

ソ連 大型ブーツ

 小型ブーツ

 子供用ブーツ

 いつもどれかが足りず、どれかが余っている

ブーツ生産の例：さまざまなブーツの中で、子供用のブーツのみが市場に溢れた。これは、政府が各ブーツの一定数以上の生産にボーナスを与えることを決めたため、各工場が皆、より生産しやすい子供用ブーツのみを作ったため子供用は超過供給となり、大

人用は不足した

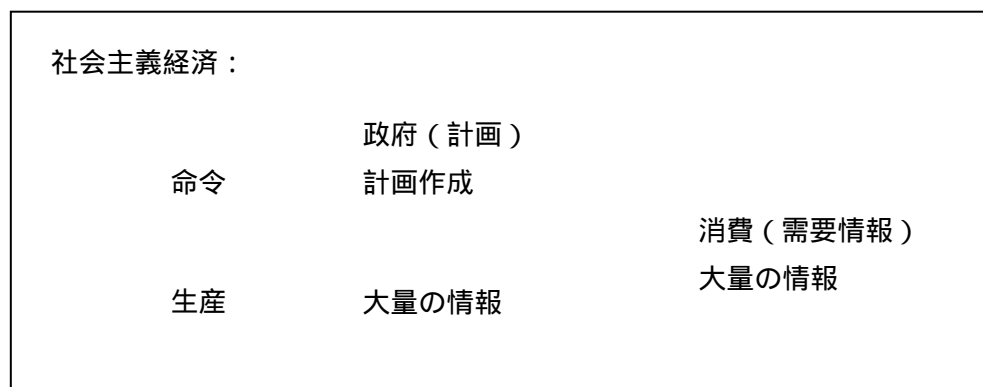
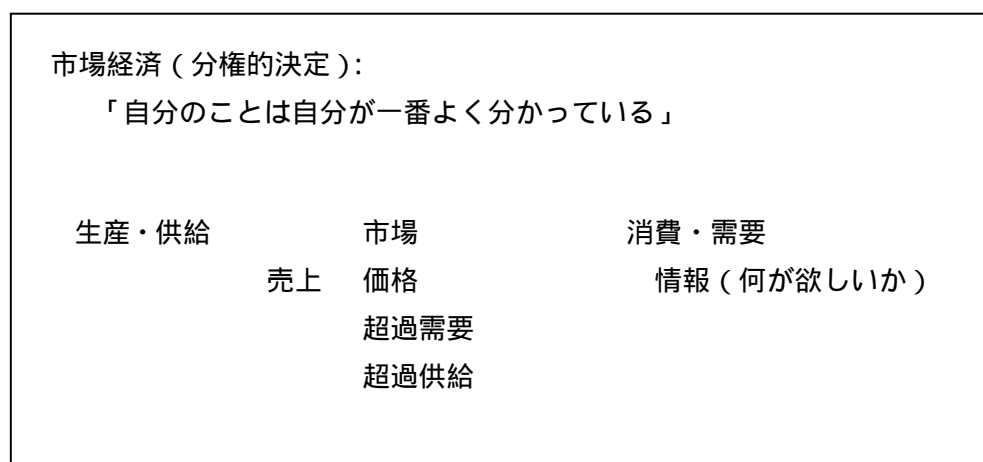
(トラクター生産で、部品が揃わないために不良品が続出すると、
農業生産にも悪影響が生じる)

低経済効率が悪循環

↔市場メカニズム：必要に応じて生産・供給がすすむ

市場経済では消費需要の情報を受けて生産し、価格が決定される。

計画経済(社会主義経済)では、政府が生産者に生産量を命令するためには大量の「需要情報」「生産情報」を集める必要があった。



(旧)ソ連：第2次大戦後20年間は経済成長が実現

農業人口の工業化

生産性の向上

経済成長・経済システムの複雑化についてゆけない(1970年代以降)

1917 ソ連成立

1939-45 戦争(第二次世界大戦) 中休み 戦争経済

1945-89 経済競争：経済計画・実施のための公務員を増員

1960 頃からソ連は経済改革

少しずつ市場経済を採用（妥協）

消費財：自由市場

投資財・資本財：国営

金融・通信・コンピューター：国営

情報は厳しく制限された

戦後の経済競争（40 数年）で、両陣営（社会主義と資本主義）で大差がついた

3. 市場経済の情動的効率

資本主義と社会主義の比較

- ・ 社会主義 情報の無駄遣い
- ・ 資本主義 市場メカニズム 情報の節約 / 効率的な使用
(価格メカニズム)(アダム・スミスの「見えざる神の手」)